



発 明 届 (記載例その1) 年 月 日

産学公連携センター長 殿

届出人：首都大 一郎 (印省略)

下記の発明をしましたので届け出ます。

記

1. 提案の名称： 管理番号 (本部用)

(提案する発明等の名称を以下に記入)

微細加工技術を用いた高周波マイクロデバイス

2. 発明者：(複数の場合はその旨添記ください)

所属：都市教養学部 理工学系 ○○○工学コース

職名：准教授

氏名：首都大 一郎

(ローマ字表記) Syutodai Ichiro

電話： — 内線△△□□ FAX： —

E-mail： @

自宅住所：〒192-0397 東京都八王子市南大沢 1-1

※共同発明者がある場合には、学内／学外の別を表記してください。

【学内】

所属：都市教養学部 理工学系 ○○○工学コース

職名：助教

氏名：大沢 みなみ

(ローマ字表記) Minami Osawa

電話： — 内線△□△□ FAX： —

E-mail： @

自宅住所：〒192-0397 東京都八王子市南大沢 1-1

3. 発明の概要

(1) 既存技術及び技術分野

(例：発電機に用いられる電磁コイルに関する。)

従来電磁コイルとしては、コイルを構成する導体の表面に2重絶縁層が形成され、2重絶縁層として導体の表面側に絶縁マイカテープを巻回し、マイカテープの上に外装テープを巻回したものが用いられている。)

(2) この発明に近いと思われる特許または論文等。

(例：特願2000-123456「電磁コイル」)

(3) 既存技術の問題点

(例：マイカを用いた絶縁テープは、耐コロナ性や高耐熱性の面では優れているものの、熱伝導性が悪い)

(4) 発明の目的(発明の解決課題)

(例: 課電寿命特性と製造性およびコスト、あるいは、課電寿命特性と熱伝導性をバランス良く共有できる絶縁層を有する電磁コイルを提供すること)

(5) 技術的説明(どの部分が発明か、どこが新規か、必要により資料別添)

(例: ・コイル導体の外周面に、2層構成の絶縁層を形成した絶縁電線を、所定回数巻回し、さらに構造物に挟んで配置してなるコイル

・前記2層構成の絶縁層は課電寿命が30万時間になる電界強度が E_1 である絶縁層Aと、課電寿命が30万時間になる電界強度が E_2 である絶縁層Bからなる。

・前記コイル導体と前記構造物のいずれかの表面に電界が集中している。

・前記電界強度が $E_1 < E_2$ であるときに、電界が集中している側に絶縁層Bを配置する「新規な部分」)

(6) 発明者が出願前に発表した近似する技術がある場合は、当該論文、雑誌掲載等。

(例: 特願2000-123456)

4. 使用した研究経費(該当箇所にチェックしてください ☒)

- | | | |
|---|--------------------------------|------------------------------|
| ☒ 校費(当校費) | ☐ 奨学寄付金 | ☐ 科研費 |
| ☐ 受託研究費 | ☐ 共同研究費 | ☐ なし |
| ☐ その他() | | |

注) 国等からの委託を受けて研究を遂行し、知的財産を創製した場合、報告や、記載義務が課せられている場合がありますので、その他()内にその旨記載願います。

5. 職務発明であると ☒ 思う。 ☐ 思わない。(理由:)

注) 職務発明で無い場合は、以後不要。

6. 発明に関する学外発表予定(該当箇所をチェックしてください)

既に本発明に関係する刊行物(論文、レポート、前刷り、増刷、要約など)やインターネットに公表したコンテンツ等がある場合、それらの公表日付けを記載してください。

- ☐ 論文等発表予定なし

☒ 将来発表の予定だが、具体的ではない。

☐ 論文等作成中

☐ 論文等原稿完了（公表予定日： 年 月 日）

☐ 論文等公表済み（公表日： 年 月 日）

→ 公表先： _____

☐ その他（以下に記入） _____)

7. 特許出願について

（1）希望する出願国

☒ 国内出願のみ ☐ 外国出願のみ ☐ 国内・海外双方に出願 ☐ 未決定。

（2）外国特許出願希望の場合

・ 外国特許出願する理由 （必ず記入してください）

（例：基本特許に該当すると考えるため、共同研究先企業の希望 等）

・ 対象国

（以下に記入）

・ 実施許諾、共同研究の可能性のある企業。

☒ なし

☐ あり → 連絡先名等： _____

（注．外国出願する場合は多額の費用を要しますので、大学で出願する場合、JST の海外出願支援制度を利用します。支援が受けられない場合、大学で出願することは困難になりますので、その点に御留意ください。支援審査に当たっては、特許性・市場性等の JST 評価に堪えられる必要があります。）

8. 発明の産業上の利用可能性

発明がいかなる産業分野において具体的にどの製品又はサービスに適用可能であるか、以下に記載してください。

（例：この発明は電力産業分野で応用可能。具体的には発電機や発電機用部品に適用）

9. 外部状況

（1）発明に関し学外者と契約関係は？

☒ なし

☐ あり → 連絡先名等： _____
契約の種類： _____

（2）発明の商業化に関して関心が学外から寄せられましたか？

ある場合はコンタクト先の名称、担当者、電話番号、E-mail 等をご記入ください。

（該当箇所をチェックしてください）

☒ なし

☐ あり → 連絡先名等： _____

(3) 発明に興味を持ちそうな企業名をご記入ください(可能な範囲で多数)。

- 株式会社AAA
- _____
- _____

10. その他補足事項がありましたらご記入ください。

(以下に記入)

※ご記入になりましたこの発明開示書の電子ファイルと参考資料を、下記あて電子メールでお送りください。メールで送れない場合には学内便や郵送でお送りください。

【提出先】

産学公連携センター 知的財産担当

info-chizai@jmi.tmu.ac.jp